

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	16	学校名	静岡県立中央特別支援学校	校長名	高橋 和彦
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価
安全・安心な学校づくり	キラリ&ホットの視点に基づいた生徒指導の推進	・キラリ&ホットの視点を意識して人権を尊重した言動を行うことができた職員 100%	・キラリ&ホットについて1か月に1度、グループで考えたり、場を設けて意見を出し合ったりして、話し合う機会ができ、日常的に人権感覚を高めることができた。 ・成果目標が達成できた職員 100%	A
	安全な医療的ケアを実施するための環境づくり	・医療的ケアに関心をもったり、安全に医療的ケアを実施したりすることができた職員 100%	・校内医療的ケア担当者会にて、ヒヤリハット・インシデントを共有することで、個々だけでなくグループ内での意識向上に繋げることができた。お互いの言葉かけでインシデントを未然に防ぐキラリ&ホットの報告も数件挙げられた。また、一年を通して定期的にヒヤリハットの発信を続けたことで、医療的ケアの担当ではない他の教師も興味関心を持つことができた。 ・成果目標が達成できた職員 96.1%	B
	安全で健康的な学校生活をおくるための環境づくり	・提示された情報をもとに日々の学校生活に潜む危険に注意を向けることができた職員 90%	・学部の朝の打ち合わせやグループ会等で呼びかけを行うことで、学校生活におけるキラリ&ホットやヒヤリハットに意識を向けることができた。また、掲示板を活用して全体に共有することで、他学部で起こったヒヤリハットを自身の学部でも意識して学校生活を送ることができた。 ・成果目標が達成できた職員 100%	A
	将来の豊かな生活に向けた計画的な食育の推進	・年間を通して、児童生徒の食への興味関心を広げる取組を行うことができた職員 90%以上	・昼の放送で放送委員会や児童会が録音した献立紹介を放送で流すことで、児童生徒が食育について興味関心を広げることができた。昇降口には、情報を精選し、写真やイラストを中心に工夫したことで、掲示物が分かりやすくなった。献立に出てくる本物の茶葉や新茶を展示し、触れたり香りを楽しみ、理解を深めることができた。 ・成果目標が達成できた職員 94.7%	A

	災害時、非常時における判断力、行動力、連携の向上につながる訓練・研修・振り返りの充実	・自らの立場や役割の中で、あり得るリスクとリスク回避の行動を考えることができた職員 90%以上	・地震避難訓練では、各学部1～2名教員に怪我人が出た想定で訓練を行った。救護所開設の流れや、怪我人がいたときにどういう対応をするかなど対応を考える機会となった。救護所を保健室に設置したが、ストレッチャーで運ばれた怪我人がいたため、救護所が狭くなるなどの課題に対し救護所を体育館の一部に設置するなど改善案を検討することができた。 ・成果目標が達成できた職員 98.4%	A
	児童生徒の実態に合った、安全で生活しやすい環境づくり	・児童生徒の実態に合った、生活しやすい教室環境を整えることができた職員 100%	・毎月の安全点検を各学部で行い、児童生徒の実態に応じて教室環境を整えた。学校評価や学部作業後のアンケートをもとに、校内の廊下や共有スペースなど安全点検の場所がないところについて、各課と連携し整理整頓を行い、安心安全に生活できるように改善することができた。 ・成果目標が達成できた職員 99.3%	B
	自分の考えや意見を安心して発言できる環境づくり	・話し合いにおいて、自身の考えや意見を安心して伝えられていると実感できた職員 100%	・風通しの良い学校、主事や副主事、主任へ話をしやすい環境で良いという評価が多数あった。仕事量の偏りや会議で情報共有できる時間が減っている評価もあった。 ・成果目標が達成できた職員 97.0%	B
生きる力を育む授業実践	「他者の考えから新たな視点や気づきを得て、自身の考えを広げ深める」という学びのある授業実践、生活指導	・個別最適な学びのさらなる充実と、協働的な学びを意識した授業づくり、生活指導を行うことができた職員 90%	・児童生徒の深い学びに繋げるための、個別最適な学びと協働的な学びの指導支援について授業づくりをする中で、具体的に考え生活指導を行うことができた。 ・成果目標が達成できた職員 97.7%	A
	ICT をツールとして活用する授業実践、生活指導	・ICT をツールとして活用した授業実践を行った職員 100%	・日々の相談に加えて、個別相談会を2回実施した。学んだことをすぐに授業で活かす職員がいたり、日常での相談も増えたりして、日常的にICTの活用をすることができた。 ・成果目標が達成できた職員 94.5%	B
	他者と協働したり自分の考えを伝えたりする等、保健体育の見方・考え方で育成を目指す資質・能力を育む授業実践	・保健体育の見方・考え方で育成を目指す資質・能力を育む授業実践を行うことができた、または授業実践の価値を答えることができた職員 90%以上	・校内掲示板を効果的に活用してパラスポーツ関連の情報を紹介し、児童生徒の興味・関心を高めることができた。また、静岡県障害者スポーツ協会主催の巡回指導（ポッチャ教室）を実施し、専門的な技術指導やランプの活用法を学ぶことができた。 ・成果目標が達成できた職員 92.2%	A

	各教科等で育む資質・能力の育成を支える自立活動の指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の視点での学びを教科等の授業実践で生かすことができた職員 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・OT の巡回指導を受け、担当が学年、グループ、学部など児童生徒にかかわる教員と指導内容を共有でき、分かり合えて指導につなげることができた。 ・成果目標が達成できた職員 94.6% 	A
地域や社会に開かれた学校づくり	地域資源を活用した学習や、地域の学校との関わりの推進と学びの効果の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に発信することを考えて、作品づくりをしたり、つながりを実感したりすることができた職員 90% 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展に向けて計画的に紹介、選定、出展までを行い、昨年度よりも多くの児童生徒の作品を出展することができた。 ・静岡市立中央図書館麻機分館におすすめの本の掲示を行った。 ・成果目標が達成できた職員 97.7% 	A
	保護者や関係機関、地域と連携し、課題解決を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、関係機関、地域との連携を図ることができたり、連携していることを知ったりすることができた職員 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校のセンター的機能として他校（農業高校や市立高校）や市町の関係機関（子育て支援連絡会で子ども未来課や保育所、公民館）と連携した。 ・成果目標が達成できた職員 99.2% 	A
	地域との連携等を意識した個別の教育支援計画の作成計画の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・連携することを意識して個別の教育支援計画を作成することができた職員 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルプラットフォームの導入にむけての取り組みも含め、個別の教育支援計画に触れる機会が例年よりも多くなり、本人・保護者との面談の中でも個別の教育支援計画の内容を意識することができた。 ・成果目標が達成できた職員 99.2% 	A
	現在や将来の豊かな生活を目指すための関係機関との連携を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携や関わりから、児童生徒の現在や将来の豊かな生活を目指し、支援・指導することができた職員 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援連携課と連携し、よろず相談会を実施し、学部内で情報共有することができた。また、生徒や家庭の困り感などを主訴とし、学校と生徒・保護者との連携を図るため、コーディネーターを軸に校内ケース会議を実施した。 ・成果目標が達成できた職員 97% 	A
	社会とつながる教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館での図書紹介や各種作品展をとおして社会と関わることができたといえる職員 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展に向けて計画的に紹介、選定、出展までを行い、昨年度よりも多くの児童生徒の作品を出展することができた。 ・成果目標が達成できた職員 93.8% 	A